

公害健康被害予防事業の概要

目的

大気汚染の影響による健康被害を予防するために必要な事業を行うことにより、地域住民等の健康の確保を図る。

実施する根拠となる法律

『公害健康被害の補償等に関する法律』

昭和49年に施行された『公害健康被害補償法』が昭和63年に改正。名称も変更された。

事業開始時期

昭和63年3月から

主な事業対象地域

47地域

※著しい大気汚染が生じ、その影響により気管支ぜん息等の疾病が多発していた41地域及びこれに準ずる地域として定められた6地域。その後、四日市市と楠町の合併により、現在は計46地域。



事業の財源

①公害健康被害予防基金※の運用益

②自立支援型公害健康被害予防事業補助金(環境省からの補助金。平成20年度から交付)



事業の対象分野

環境保健分野 気管支ぜん息及びCOPD(慢性閉塞性肺疾患)を始めとする疾病の発症予防、健康回復に資する事業

環境改善分野 大気環境そのものの改善に資する事業

事業の内容

地方公共団体が行う事業に助成をする事業【助成事業】

■ソフト3事業 ⇒ 3～4ページ

- 健康相談
- 健康診査
- 機能訓練

■施設等整備(助成)事業 ⇒ 4ページ

- 医療機器整備
- 大気浄化植樹

■計画作成事業

- 地域の大気環境改善のための計画作成への助成

環境再生保全機構(ERCA)が自ら行う事業【直轄事業】

■知識普及 ⇒ 5～8ページ

- イベントの開催
- パンフレット、ホームページ等による情報提供
- ぜん息・COPD電話相談室の運営 等

■研修 ⇒ 9～10ページ

- 地方公共団体が行う公害健康被害予防事業の従事者等に対する研修
- 地域の医療機関等で患者教育に従事するコメディカルスタッフに対する研修

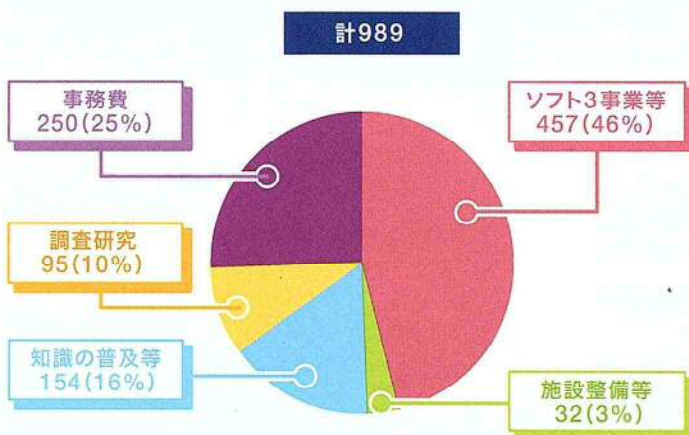
■調査研究 ⇒ 11ページ

- 大気汚染による健康影響に関する総合的研究
- 局地的大気汚染対策に関する調査研究

事業費の内訳

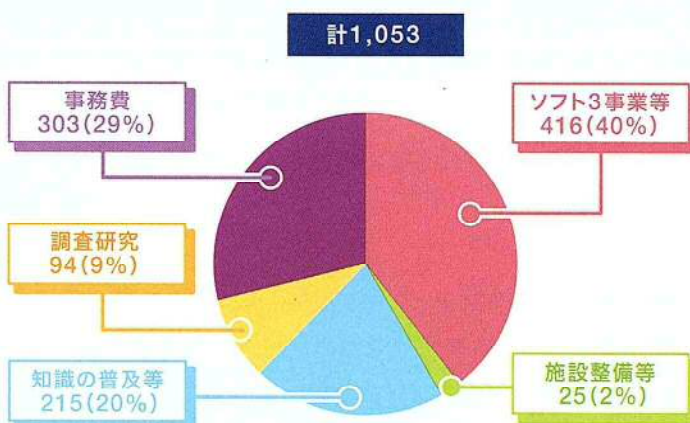
平成26年度決算額

(単位:百万円)



平成27年度予算額

(単位:百万円)



※割合については、小数点以下を四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合があります。

予防事業の効果的な実施に向けた見直し

近年、ぜん息やCOPDは、治療方法の進歩などにより患者層が変化しており、自己管理への支援の必要性が増すなど患者のニーズや環境に応じた事業展開が望まれています。また、大気汚染の環境改善を巡る状況も変化してきており、地域における普及啓発や人材育成などのソフト面の対策の必要性が高まっています。▶ **実効性の高い事業へのシフト**

他方、行政改革への対応や予防基金の運用収入の減少など事業環境の変化に加え、地方公共団体の関係部署においても組織体制の変化といった問題が顕在化しています。▶ **より効果的な事業の展開**

これらを踏まえて、ERCAでは平成25年度に検討を行い、今後の予防事業のあり方、事業項目ごとの効果的な事業の展開方法などについて取りまとめ(下図参照)、平成26年度から始まる第三期中期目標期間(5年間)に具現化し実行しています。

次のページからは、その状況を事業項目ごとに、変更のポイントを中心に紹介していきます。

環境の変化

必要な施策

施策例

治療環境の進歩
(発作治療から予防管理への転換)



現在の患者特性やニーズに
焦点をあてた必要な支援

アドヒアランスの向上(自己管理支援)
増悪予防、合併症予防
ハイリスクアプローチ

患者の症状の軽症化



支援の必要な患者への
アプローチ

低アドヒアランス患者へのアプローチ
医療機関未受診患者のフォロー

事業実施基盤の弱体化
スタッフ不足



ソーシャルサポートの充実

保育、教育機関との連携
専門スタッフの育成
NPO、患者団体との連携

効果の高い事業に重点



効率的な事業展開への転換

年齢層(小児、高齢者)の重点化
疾病対策(二次予防、三次予防)の強化

ERCAでは、地域住民のぜん息等の発症予防、健康回復に直接つながる事業を特に重要だと考え、地方公共団体が実施する健康相談事業・健康診査事業・機能訓練事業を「ソフト3事業」と称して、重点的に助成しています。

予防事業のより効果的な実施に向けた見直しに合わせ、「ソフト3事業」についても、現在の治療環境や患者ニーズを踏まえつつ、地方公共団体にとってより主体的かつ効率的な事業実施を可能とする助成事業メニューへ見直しを行い、見直し後の助成事業メニューは平成27年度から実施しています。

「ソフト3事業」ごとの26年度実績と27年度計画は、次のようになっています。

健康相談事業

地域住民全般を対象として、医師、保健師、栄養士等による相談及び指導を行い、ぜん息等に関する知識の普及や意識の向上を図る事業です。

より多くの方々へ啓発を行うとともに、患者教育の体制の強化を図れるよう見直しを行いました。

年度	事業実施 地方公共団体数	相談者数 (延人)	家庭訪問実施人数 (延人)	ピークフローメーター 支給・貸与数(個)	ネブライザー 貸与数(台)
26年度実績	43	15,794	527	52	105
27年度計画	44	31,929	340	85	105



医師による相談の様子

健康診査事業

母子保健法に基づき地方公共団体が行う「乳幼児健康診査」の場合等を利用して、保健師や医師の問診・検査によりアレルギー症状の有無等を確認(スクリーニング)し、ぜん息の発症リスクが高い児については発症防止のための適切な指導を行います。また、既にぜん息を発症している児についても、必要に応じて療養指導等を行っています。

発症リスクの高い児へのフォローアップを効果的に行えるよう重点化した事業へと見直しを行いました。

年度	事業実施地方公共団体数	スクリーニング対象者数(延人)	指導対象者数(延人)	血液検査対象者数(延人)
26年度実績	26	162,887	37,486	269
27年度計画	25	86,421	36,608	—

機能訓練事業

ぜん息等の患者を対象として、療養上有効な運動訓練及び各種教室を実施することで、呼吸機能の改善や自己管理方法の習得を図る事業です。

患者のニーズや地域の実情に柔軟に対応できるよう事業の枠組みを見直し、固定型のメニュー(水泳訓練教室・音楽訓練教室・ぜん息キャンプ)から、地方公共団体の企画立案による自由度の高い事業実施を可能とする方式に変更しました。

(1)運動訓練教室

運動訓練を行い、運動機能や心肺機能を向上させることに加えて、自己管理方法を習得するものです。

[例]水泳訓練教室、スケート教室、サッカー教室



水泳訓練教室の様子

(2)自己管理支援教室

環境整備や服薬方法など、主に自己管理方法の習得に重点を置いたものです。

[例]デイキャンプ、呼吸リハビリテーション教室、呼吸筋ストレッチ教室、スポーツ吹き矢教室、音楽訓練教室



デイキャンプの様子

【26 年度実績】

水泳訓練教室		音楽訓練教室		ぜん息キャンプ	
事業実施 地方公共団体数	参加者数(延人)	事業実施 地方公共団体数	参加者数(延人)	事業実施 地方公共団体数	参加者数(延人)
30	24,609	10	539	19	2,682

【27 年度計画】

運動訓練教室		自己管理支援教室	
事業実施予定 地方公共団体数	参加予定者数(延人)	事業実施予定 地方公共団体数	参加予定者数(延人)
31	37,328	21	3,375

「ソフト3事業」の事業実施効果の測定・把握のための調査

「ソフト3事業」のより効果的な実施を図るために、地方公共団体で実施しているソフト3事業の事業対象者に対してアンケート調査を実施し、定量的な指標により事業実施効果の把握を行っています。

指標には次のようなものがあります。

- 参加者による事業評価
- 行動変容の有無
- 知識の普及・気づき
- QOL(quality of life;生活の質)の変化
- コントロール状況の変化(症状の変化)

また、地方公共団体が事業の実施効果を速やかにフィードバックできるよう、アンケート集計分析システムを構築し、平成26年度から活用されています。

施設等整備(助成)事業

「ソフト3事業」以外には、次の事業に助成を行っています。

環境保健分野

【医療機器等整備(助成)事業】

地域におけるぜん息等に関する保健・医療水準の向上を図るために、地域保健・医療の基幹をなす保健所及び公立病院並びに公的な病院等に対して、ぜん息等に係る医療機器を整備する事業です。対象となる医療機器として、換気機能検査装置や呼気ガス分析装置等があります。

平成26年度は、主に保健所等へ換気機能検査装置の整備を行いました。



換気機能検査装置

環境改善分野

【大気浄化植樹(助成)事業】

地域における大気環境の改善に資することを目的に、大気浄化能力を有する植栽を整備する事業です。

対象樹木の選定等に当たっては、ERCAが作成する『大気浄化植樹マニュアル』を参考にすることで、より効果的な事業となるようにしています。本マニュアルは、ERCAが実施している調査研究の結果を活用して、平成26年度に改訂しております。

平成26年度は、小学校や地域の公的施設等へ植樹を行いました。



植樹前

植樹後



ERCAでは、知識普及事業として、講演を始めとした様々なイベントの開催やパンフレット類の作成・配布、「ぜん息・COPD電話相談室」の設置等を実施しています。

ぜん息患者等に効果的なイベントとするため、患者団体や学会の医学専門家、地方公共団体等へのヒアリングを行い、そこで把握したニーズに基づく内容としています。

例えば、「専門医への相談や交流の機会を提供してほしい」という患者団体からのニーズに応えるため、関連する学会等との共催で市民公開講座を行っています。平成26年度からは新たに「アレルギーの日関連行事」を開催しました。

環境保健分野

【市民公開講座】一般の方向け

対象：ぜん息等の患者やその関係者を中心とした地域住民の方

専門医によるぜん息等アレルギー疾患についての正しい知識を普及し、相談・交流の機会を提供することを目的に、関連学会等との共催で市民公開講座を開催しています。

専門医の講演を始め、実習等を同時に行うことで、より効果的な事業となるようにしています。

神戸市での開催時は、『みんなで学ぼう！アレルギーブース』と題し、パネル展示と実習を通して体験しながら疾患のことを学んでもらいました。また横浜市での開催時は、『自己管理支援のためのミニ相談』として、疾患に関する日頃の心配ごとについて専門分野の先生方へ相談する場を設け、日常管理に役立ててもらいました。



みんなで学ぼう！アレルギーブース



自己管理支援のためのミニ相談

開催日	開催場所	共催団体	テーマ
平成27年4月5日	神戸	第29回日本医学会総会 2015関西	みんなで学ぼう 子どもの ぜん息・アレルギー
平成27年6月21日	横浜	日本小児難治喘息・ アレルギー疾患学会	みんなで支えよう！ こどものぜん息・アレルギー
平成27年10月16日	千葉	(一社)日本呼吸ケア・ リハビリテーション学会	健康寿命と肺の健康を考えよう

《平成26年度実績：参加者533名》

新規【アレルギーの日関連行事】一般の方向け

対象：ぜん息等の患者やその関係者を中心とした地域住民の方

公益財団法人日本アレルギー協会は、2月20日を『アレルギーの日』、その前後1週間を『アレルギー週間』と制定し、その期間中、患者や医療従事者向けに様々なアレルギーの啓発活動を行っています。ERCAはその趣旨に賛同し、協会との共催により、ぜん息等アレルギーの啓発に関する講演会を平成26年度から開催しています。

開催(予定)日	開催場所	共催団体	テーマ
平成28年2月21日	東京	(公財)日本アレルギー協会	調整中

《平成26年度実績：参加者306名》



パネルディスカッション

【ぜん息児水泳記録会】 一般の方向け

対象：地方公共団体が行う水泳教室に参加しているぜん息児等（小中学生）

水泳のタイムレースを通じて日頃の成果を発表し、同じ疾患を持つ者同士のふれあいを深める場として、ぜん息児水泳記録会を開催しています。健康を回復させる上で大切な、自己管理の啓発・継続を図ることを目的としています。

タイムレース開始前に薬の吸入手技指導を交えたミニ体験教室と全員参加型のピークフローメーターの使用実技指導を行うことで、ぜん息児及び保護者への保健指導・患者教育の機会を提供しました。

開催日	開催場所
平成27年9月27日	大阪
平成27年10月17日	東京

《平成26年度実績：参加者数234名》



タイムレース



ピークフローメーターの実技指導

【保育所等におけるアレルギー疾患講習会】 専門職向け

対象：保育所・幼稚園の職員、地方公共団体の保育関係部署の担当者

保育所におけるアレルギーに関する正しい知識を普及させるとともに、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の現場での更なる活用を促進し、アレルギー児への対応の充実を図ることを目的として、厚生労働省との共催による講習会を開催しています。

専門医と厚生労働省の担当官による講演のほか、地方公共団体における事例紹介として、担当者が事故防止の取組等について発表する時間を設けています。

また、緊急時の対応として、ショック症状を起こした際に用いるアドレナリン自己注射薬（エピペン®）の使用方法を、実演をみながら学ぶことができます。参加者にはエピペン®の練習用機器を配布し、職場に戻ってからのシミュレーションに役立ててもらいます。

開催（予定）日	開催場所
平成27年10月30日	名古屋
平成27年11月6日	神戸
平成27年11月27日	東京
平成27年12月11日	福岡

《平成26年度実績：参加者1,159名》



専門医による講演



エピペン®の実演

新規【COPDの予防等に関する講習会】専門職向け

対象：地方公共団体において健康政策を担当する職員、地域の医療従事者等

開催(予定)日	開催場所	共催団体	テーマ
平成28年2月23日 平成28年2月24日	神戸 岡山	(一社) GOLD日本委員会	地域で取り組むCOPD対策 ～認知度向上と早期発見を目指して～(案)

地域におけるCOPD対策の推進を図ることを目的として、一般社団法人GOLD日本委員会との共催で、地方公共団体職員や地域の医療従事者等を対象に、COPDの予防等に関する講習会を開催します。

講習会では、COPDの基礎知識と最新情報についての普及啓発や、地域でのCOPD対策について紹介するとともに、COPDの診断に役立つスパイロメーターによる肺機能検査(実技指導)体験を行います。

環境改善分野

新規【大気環境対策セミナー】専門職向け

対象：地方公共団体及びその付属研究機関等の職員

大気環境の改善に係る知識の普及及び大気環境にやさしい行動の促進を図ることを目的として、大気環境改善に資する施策に関する情報を提供する大気環境対策セミナーを開催しています。

初開催となる平成26年度は、近年関心の高いPM2.5の対策や健康影響に関する最新の知見について普及啓発を行いました。また、『今後のPM2.5対策のあり方について』と題してパネルディスカッションを行い、国や研究機関の方々による議論が交わされました。

開催(予定)日	開催場所	テーマ
平成28年2月9日	神戸	PM2.5の現状と今後の取組について

《平成26年度実績：参加者100名》




パネルディスカッション

パンフレット

ERCAでは、パンフレットやDVDを制作し、希望者に無料で配布、貸出しをしています。ERCAのホームページから、閲覧・申し込みが可能です。

平成27年には次のものを発行しています。

新規 正しい吸入方法を身につけよう(DVD・ポスター)

ぜん息・COPDの治療薬に関する知識と吸入薬の吸入方法をご家庭で学べるよう、各吸入器の吸入方法を収録したDVDと吸入方法一覧、治療薬一覧を掲載したポスターを制作しました。

医療や保健指導における患者教育の資料として、また、家庭における学びの教材として活用されています。(平成27年3月発行)



新規 ぜん息&COPDのための生活情報誌 すこやかライフ No.46

ぜん息・COPDの予防と健康の回復に役立つ最新の医学情報、調査・研究情報、地域の先進的事例等を掲載した情報誌を年2回発行しています。同じ内容をWEB版として「大気環境・ぜん息などの情報館」の特設サイトに掲載しています。

最新号では、特集として『成人ぜん息が増えています 治療と自己管理の見直しを!』をテーマに取り上げ、また医療トピックスとして「アレルゲン免疫療法」について紹介しています。

(平成27年9月発行)



インターネットからの申し込み <http://www.erca.go.jp/yobou/>

大気環境・ぜん息などの情報館

検索

「パンフレット」のページより
閲覧・申し込みができます。

お電話からの申し込み 044-520-9568

FAXからの申し込み 044-520-2134

ホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」

ぜん息・COPDに関する最新情報や大気環境改善に関する情報を、ERCAホームページ内のコンテンツ「大気環境・ぜん息などの情報館」で公開しています。

その他にも、次のようなサービスを提供しています。

- イベントの開催情報、申し込み、動画配信
- キッズページ
- eラーニング学習支援ツール



大気環境・ぜん息などの情報館

検索

<http://www.erca.go.jp/yobou/>

ぜん息・COPD電話相談室

ぜん息・COPD患者等の個々の疑問を解決するために「ぜん息・COPD電話相談室」を設置し、看護師・専門医が相談に応じています。26年度は計1,178件の相談をいただきました。

フリーダイヤル



こきゅうはい ~ よ
0120-598014

月~土

受付曜日・時間
10:00~17:00(祝日は除く)

FAX

0120-598099

ホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」からメールによる相談も受け付けています。

研修事業(公害健康被害予防事業を担う人材の育成) Y

ERCAでは、地方公共団体が実施する「ソフト3事業」や環境改善事業に従事する方等を対象として、予防事業への理解を深め、必要な知識・技能を理論面と実践面の双方から習得し、事業効果をより高めるための研修を実施しています。

平成26年度は、地方公共団体従事者向け研修を4コース、医療機関等に勤務するコメディカルスタッフ向け研修を2コース開催し、延べ374名に受講いただきました。研修終了後のアンケートでは、全ての研修において90%以上の受講者から、5段階評価で上位2段階までの評価を得ています。

平成27年度は、次の研修を実施しています。

【地方公共団体従事者向け研修】

公害健康被害予防事業の従事者を対象に、事業実施に必要な知識及び技術を理論的・実践的に習得することを目的とした効果的な研修を実施しています。

研修名	実施(予定)日	内容
ソフト3事業研修	平成27年6月10日～12日	ソフト3事業に従事する事務担当者、保健師、看護師、栄養士、指導員等を対象に、本事業への理解を深めるとともに実施に必要な知識や技術を習得します。
保健指導研修	平成27年9月9日～11日	健康相談、健康診査事業に従事する保健師等を対象に、患者教育や保健指導に必要な理論と実践を習得します。
環境改善研修	平成28年1月14日～15日	大気環境改善施策及び大気浄化植樹事業に従事する者等を対象に、環境改善事業への理解を深めるとともに実施に必要な知識や技術を習得します。

【コメディカルスタッフ向け研修】

ぜん息等の患者における自己管理の重要性の高まりを踏まえて、地域の医療機関等で患者教育に従事するコメディカルスタッフを養成するための研修を実施しています。

研修名	実施(予定)日	内容
呼吸ケア・リハビリテーションスタッフ養成研修	平成27年11月12日～13日	理学療法士、看護師等を対象にCOPD患者の呼吸リハビリテーション指導に必要な知識、実技(服薬、栄養、排痰)等を習得します。
ぜん息患者教育スタッフ養成研修	平成27年12月3日～4日	看護師等を対象に、ぜん息患者教育の指導に必要な知識、技術等を習得します。



事例討議
(ソフト3事業研修)



環境整備の実演
(保健指導研修)



ぜん息薬の吸入手技実習
(保健指導研修)



呼吸リハビリテーション実習
(呼吸ケア・リハビリテーション研修)

eラーニング学習システムを活用した学習ツールの開発 ～在勤・在宅での学習支援～

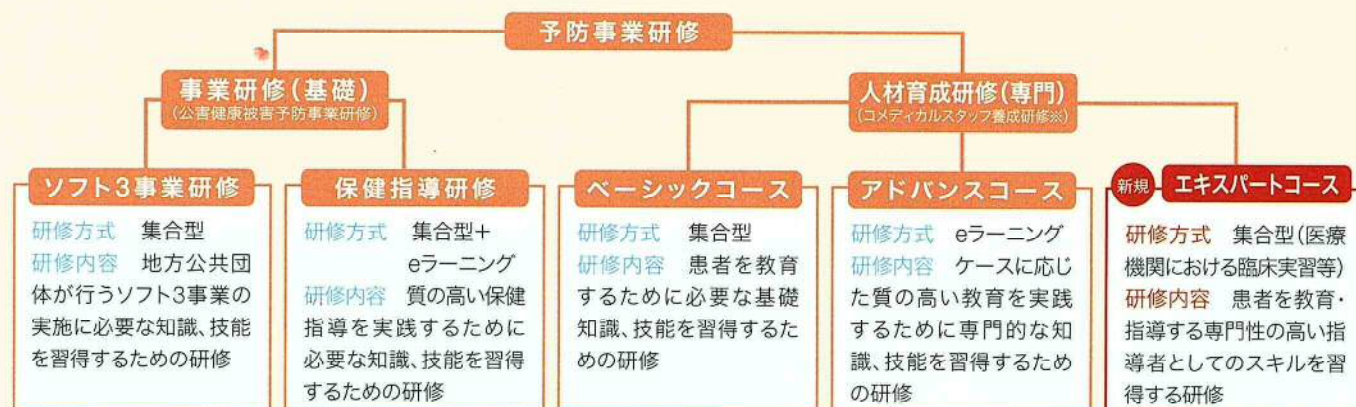
研修に参加できない事業従事者に対してぜん息等の知識等を習得する機会を提供するとともに、既受講者の復習を促進するため、在勤・在宅でも学習できるようにERCAホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」でeラーニング学習システムを運用しています。



予防事業のより効果的な実施に向けた見直しに合わせ、平成26年度に新たな人材育成の手法や人材支援システムの構築について検討を行いました。その中で、患者教育の専門家を育成し、より効果的な患者支援を行うために、これまでの環境保健分野における研修体系を見直しました。

新たな体系では、予防事業の実施に必要な知識・技能を習得するための**事業研修(基礎研修)**と、地域において患者教育を担う看護師、理学療法士等のコメディカルスタッフを育成するための**人材育成研修(専門研修)**の2本柱で実施します。

さらに、**人材育成研修(専門研修)**は、患者教育の基礎知識・技能を習得するためのベーシックコース、ケーススタディの実践力、応用力を養うためのアドバンスコース、専門性の高い患者教育の指導者を養成するエキスパートコースの3コースに分けられます。[下図参照]



※コメディカルスタッフ養成研修には、呼吸ケア・リハビリテーションスタッフ養成研修とぜん息患者教育スタッフ養成研修等があります。

新たに開設したエキスパートコースは、高度かつ専門的な知識・技能の習得を目的とするため、専門の医療機関等が運営主体となって行う実地研修です。

平成27年度は、「ぜん息患者教育指導者養成研修」と「呼吸ケア・リハビリテーション指導者養成研修」を設けており、各々の研修の概要は次のようになっています。

ぜん息患者教育指導者養成研修

【対象職種】

保健師または小児アレルギーエデュケーターの資格を有する看護師

【定員】

年15名程度

【履修時間数】

年80時間程度

【主な研修カリキュラム】

患者教育の理論
コミュニケーションスキルのレベルアップ
地方公共団体での指導プログラムの企画・立案
医療機関での臨床実習

呼吸ケア・リハビリテーション指導者養成研修

【対象職種】

理学療法士または看護師

【定員】

年15名程度

【履修時間数】

年80時間程度

【主な研修カリキュラム】

呼吸リハビリテーション指導に要する基本理論
及び患者教育の理論
地方公共団体での指導プログラムの企画・立案
医療機関での臨床実習

これらの研修の修了者には、ERCAが設置する予定の「予防事業人材バンク」に登録いただき、地方公共団体が行う自己管理支援教室の講師並びに補助スタッフを担うことや、ERCAが新たに実施する「パッケージ支援事業」に積極的に協力いただくことが期待されます。

これにより、予防事業対象地域内のネットワークを活用した人的支援の強化につながっていきます。

調査研究

環境保健分野

地方公共団体が実施する地域住民を対象とするぜん息等の発症予防・健康回復に直接つながる「ソフト3事業」の効果的な実施及び患者の日常生活の管理・指導等の充実・強化を図ることを目的として、次の分野に関する調査研究を公募し、外部有識者からなる評価委員会の事前評価を経て、平成26年度から実施しています(第10期調査研究)。

分野	研究課題名	研究代表者 (敬称略)	所 属
気管支ぜん息の発症、増悪予防に関する調査研究	①乳幼児期のぜん息ハイリスク群へのフォローアップ指導のあり方	望月 博之	東 海 大 学
	②アレルギー疾患の進展予防・管理によるぜん息の発症、増悪の予防、改善効果	下条 直樹	千葉大学大学院
		新宅 治夫	大 阪 市 立 大 学 大 学 院
	③環境因子による増悪予防のための健康管理手法	滝澤 始	杏 林 大 学
		足立 雄一	富 山 大 学
気管支ぜん息・COPD患者の日常生活の管理、指導に関する調査研究	①就学期の患者の効果的な教育、指導モデルの構築	小田嶋 博	(独)国立病院機構 福 岡 病 院
	②患者教育実践指導のための指導者育成システムの開発及び基盤整備	赤澤 晃	東京都立小児総合 医 療 セ ン タ ー
	③客観的指標によるアドヒアランスの評価	藤澤 隆夫	(独)国立病院機構 三 重 病 院
	④COPDの重症化防止のための効果的なセルフマネジメント教育の実践・普及	植木 純	順 天 堂 大 学
気管支ぜん息の動向等に関する調査研究	①気管支ぜん息患者の長期経過及び変動要因	谷口 正実	(独)国立病院機構 相 模 原 病 院

環境改善分野

局地的な大気汚染地域の大気汚染の改善に関する調査研究及び今日的な大気汚染の知見の蓄積に向けた課題についての調査研究を公募し、外部有識者からなる評価委員会の事前評価を経て平成26年度より実施しています。

研究課題名	実施機関
自動車NOx・PM法に係る対策地域におけるNO ₂ 環境基準確保の評価手法に関する調査研究	(株)数理計画
局地的な大気汚染対策に係る調査研究の体系的レビューとその成果を活用した局地的対策パッケージに関する調査研究	(一社)環境情報科学センター
道路沿道環境における微小粒子状物質(PM _{2.5})及びナノ粒子に及ぼす要因に関する調査研究	(公社)大気環境学会

これらの調査研究成果は、ERCAのホームページ「大気環境・ぜん息などの情報館」で公開するとともに、冊子『調査研究成果集』として関係地方公共団体のほか関係学会等に配布しました。また、予防事業の見直しやパンフレットの作成等に結び付けて事業への一層の活用を図っています。



独立行政法人環境再生保全機構

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー
予防事業部管理課 TEL:044-520-9564(ダイヤルイン) FAX:044-520-2134

